

## 「APRU Multi-Hazards Strategic meeting on strengthening DRR policy influence (防災政策への影響を強化するための戦略会議)」を開催しました(2018/2/27)

テーマ：国際連携、APRU, マルチハザード、政策貢献  
場 所：IRIDeS

2018年2月27日に、当研究所にてAPRU（環太平洋大学協会）加盟大学を中心に「防災政策への影響を強化するためのAPRUマルチハザード戦略会議」が開催されました。会議にはAPRU加盟大学（UCデービス、ニューサウスウェールズ大学、シンガポール国立大学、シンガポール南洋理工大學、香港中文大学、チュラロンコン大学、慶応大学、東北大学）から10名、マレーシア国民大学、さらにIFRC（国際赤十字赤新月社連盟）から合計12名が参加しました。この会議では、主に防災政策へ貢献するためには、APRUを基盤とするネットワークを中心に学術としてどのような貢献が可能か、また具体的に何ができるのかについて議論・意見交換が行われました。

最初に、今村文彦所長（災害リスク研究部門）から、当研究所の紹介と東日本大震災の被害や実態について発表があり、泉貴子准教授（地域・都市再生研究部門）がAPRUマルチハザードプログラムと今回の会議の目的・概要について紹介しました。その後、各参加者から「防災政策貢献」のこれまでの経験や、今後の活動へのアイデアについて発表がありました。最後に、柴山明寛准教授（情報管理・社会連携部門）が「防災観光」について、また翌日から予定されていた被災地視察について解説しました。

グループディスカッションでは、APRUなどの大学ネットワークを活用し、どのような政策貢献活動が可能かについて議論を行い、以下のような提案がだされました。

- 防災に関する科学技術やイノベーションの中でも、特に革新的な事例を収集し、発信する。
- IFRCが行っている「One Billion Coalition of Resilience（レジリエンス強化のために10億人の協働）」キャンペーンに参加する。
- 災害による被害軽減に最も効果的であった各国・自治体の政策・活動に焦点をあて、その対策を検証する。
- IFRCがASEANと防災への政策対話を行い、様々なアイデアが提案された。今後はAPRU加盟大学とともに、上記の提案に沿って、優れた研究・事例を集め発信する。また政策対話をさらに強化する。学術のみならず、実務者との対話や連携を続け、実践的な貢献に尽力する。

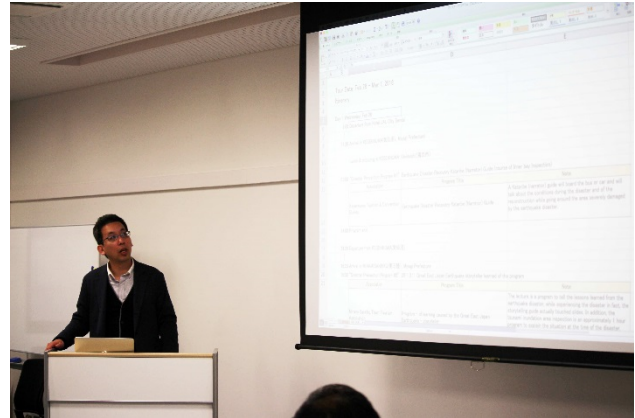
この会議の翌日から2日間、参加者は気仙沼、南三陸、石巻、女川、荒浜などの被災地を視察し、実際の復興や防災対策について学びました。

文責：泉貴子（地域・都市再生研究部門）

（次頁へつづく）



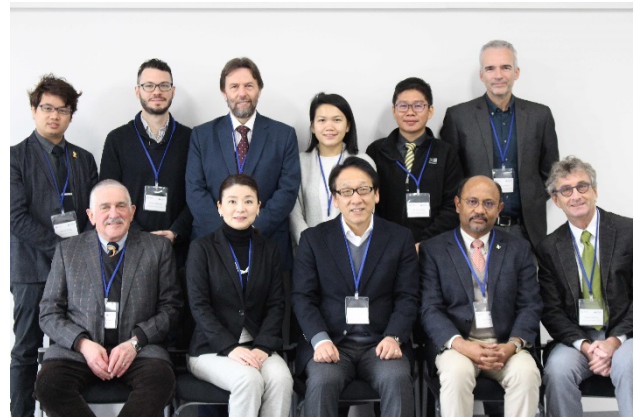
今村所長



柴山准教授



泉准教授



グループフォト



グループディスカッション



グループディスカッション